

1) テーマ：「地域で暮らす生活者を理解するための地域・在宅看護論授業の工夫」

～フィールドワーク授業への取り組みについて～

2) カテゴリー：③教育方法（授業）

3) 学校概要：学校名：岡崎市立看護専門学校 所在地：愛知県岡崎市伊賀町字西郷中 104 番地

課程名：3年課程 1学年定員：40名 修業年限：3年



授業のねらい

本校は、西三河南部東医療圏における地域住民の生活に寄り添いながら医療ニーズに対応できる質の高い人材の育成を責務とし、感性をキーワードに創造的・発展的に地域の保健・医療・福祉に貢献する専門職業人の育成を目指している。

令和4年4月からの新カリキュラムでは、地域で生活する様々な健康レベルにある人を理解し、その人らしく生活するための看護が求められており、住み慣れた地域で暮らす人を基盤にした授業が重要となっている。そのため、6月に1年生を対象に地域・在宅看護論概論Ⅰの授業で、初めてフィールドワーク（学校周辺の地域探索および地域住民へのインタビューの実施）を取り入れた。学校周辺に学生が赴き地域住民の方々と関わりを持つことや地域の特性を知ることは、地域の健康課題を考える機会となるだけでなく、将来、岡崎市を中心とした地域に貢献できる看護師を育成する上でも必要不可欠と考える。この学びを7月に初めての臨地実習となる地域包括支援センター（市内7カ所に分散）での実習に活かし、各実習先でもフィールドワークを実施することで、継続的かつ発展的な地域・在宅看護の学びができるような教育内容を予定している。

具体的な授業内容は、以下の通りである。

1 授業：地域・在宅看護論概論Ⅰ 単元「地域で暮らす生活者の理解」

～住み慣れた地域で高齢者が安全に安心した生活を送るための健康課題を考える～

2 場所：学校周辺地域

3 対象：1年生42名

4 目的：住み慣れた地域で高齢者が安全・安心した生活を送るための支援について学ぶ。

5 目標：1) 地域の特性を知ることができる。 2) 地域で暮らす人々の対象について知る。

3) 地域の生活環境が対象の健康に及ぼす影響を考える。

6 方法：対象者は学校所在地に居住する高齢者と設定し、対象者が生活の中で必要と思われる場所を目的地として、その周辺の生活環境を徒歩で探索し、途中で出会った地域住民へのインタビューも実施する。

《実施後、学生からの感想》

- ・サイクリングや運動をしている人もおり、暑くても案外、健康に気を遣っている人が多くいたことに驚いた。
- ・実際に歩くことで、地図を見るだけではわからなかった選挙の看板やゴミ収集所、雰囲気、街並みなどを知ることができた。
- ・坂や段差、道幅など生活する上で大変だなと思う場所があった。
- ・初めて出会う地域住民へのインタビューに不安があったが、快く受けて下さるばかりでとても嬉しかった。



～徳川家ゆかりの伊賀八幡宮にて～

《教員の所感》

- ・学生の表情がイキイキしており、体験を通して学ぶ価値は大きく、感性の育みへの一助になる。
- ・暑い中、地域住民の方々にインタビューのご協力をいただき、看護師への関心の高さを実感できた。
- ・学生の体調に配慮した実施時期の検討が必要である。

出発です！



蓮の花を観賞中です



テーマ:「学び方を学ぶ」科目の設置

カテゴリー:①教育課程(科目)

1. 学校概要

学校名:学校法人湘央学園浦添看護学校 所在地:沖縄県浦添市当山2-30-1 課程名:3年課程
1学年定員 120名 修業年限 3年

2. 内容

1)科目「学びの基本」を設置した根拠

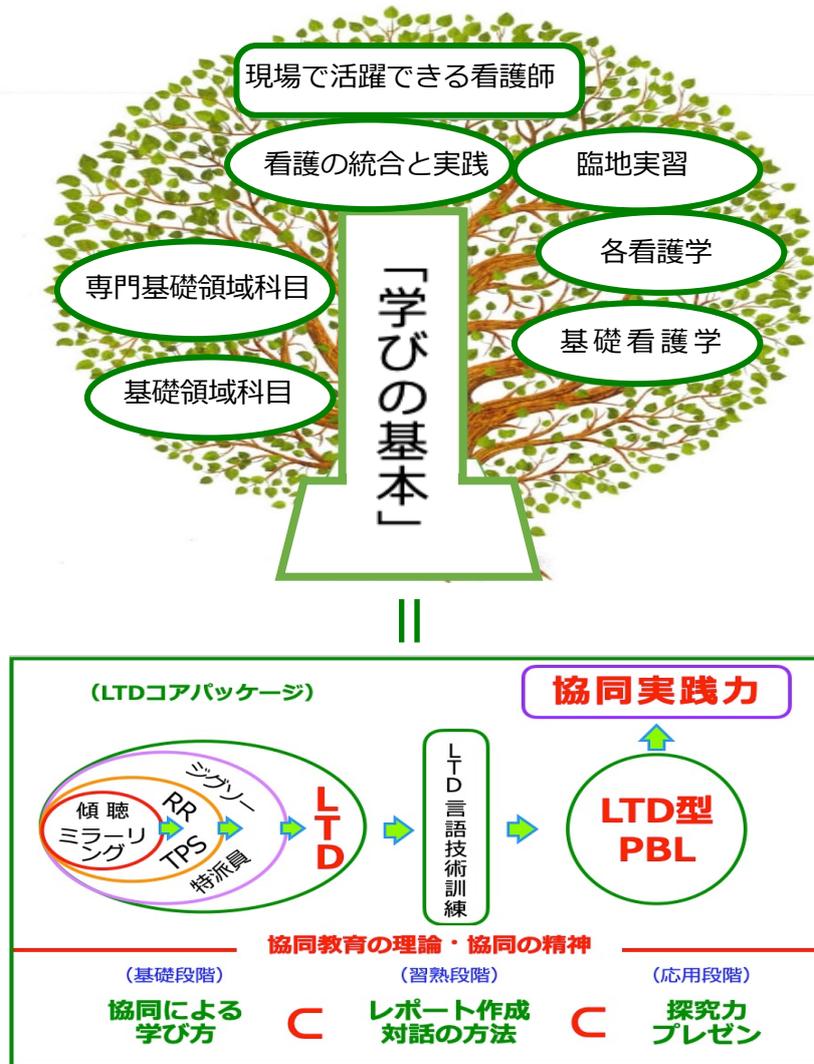
2022年4月スタートの新カリキュラム構築において、本校では①高校までの「答えの決まっている学び」から「答えのない課題を発見する学び」への転換を図り、②専門の学びを主体的に学ぶことの重要性を気づき、③多様な価値観や意識を持つ人と如何に協同し、成果を上げるか等の探究姿勢を養い、卒後の臨床現場で活躍することができる学生を育てたいと考えた。

そのためには、基礎分野及び専門基礎分野の授業展開において「軸(幹)」となるものを明確にし、学校組織として全教職員が共有し、学生との日々の関わりや授業展開の基盤にすることが必要であると考えた。それに最も適しているのが「協同教育・協同の精神」であるとし、科目「学びの基本」を設置した。

その科目を設置する前提に、昨年度(2021年)は試行科目「浦看ゼミ」を30時間実施した。その折に全教職員が学生と共に授業に参加した。

現在、看護学の全領域で単元レベルではあるが、「協同教育・協同の精神」を踏まえた授業展開を行っている。

「学びの基本」のイメージ



「学びの基本」の授業展開図 (安永悟氏の講義資料より)

テーマ「地域と暮らし」の取り組み

カテゴリー：①教育課程（単位・科目など）

1. 学校概要：学校法人日章学園奄美看護福祉専門学校 所在地：鹿児島県奄美市名瀬小湊
338-2 課程名：3年課程 1学年定数40名 修業年限3年

内容

27年前に開設され、開設当時から、地域とのつながりが深く、隣接している、268世帯、324人住民の地域の方々との共助、参画があり、地域の行事や、様々なイベントを学生が中心に担い、ボランティア活動も盛んに実施されているところであった。コロナ禍においても令和3年はボランティア参加延べ人数145名であった。地域とのつながりは通常から深かった。今年度のカリキュラム改正にあたり、地域の歴史や営みを科目たて、1年次から地域に目を向け、生活の視点から看護の対象をとらえることを目指して実施しているところである。

7月1日からフィールドワークを地域の歴史に詳しい住民を講師として迎え、地域散策を行い、学生たちでリフレクション、ディスカッション。地域の住民の理解を深める、奄美看護福祉専門学校が、開設される当時、周囲の重要文化財が発掘され、フワガネク遺跡が発見、奄美と沖縄でしか見られない夜光貝から作られた食器が発見され、6～8世紀のものでその謎があきらかになった。近代では、薩摩藩、琉球、米国と支配下にあったが、その中でも江戸時代のペリー来航時、小湊の港でペリーが貿易を行っており、バター等を輸入していたとのこと、歴史を振り返ると、今の奄美の人々のアイデンティティの背景を垣間見ることができ、高齢者等との関りも深く学ぶことができ、つながりを感じる。薩摩藩の支配下時には、唯一歌、今の奄美の民謡が、楽しいとき、苦しいとき言語化されて、方言も残されている、古語や、沖縄の言葉も、文化も継承されているところもあり、様々な影響を受け、その積み重ねにより、人との対応がやさしく受け入れが柔軟であることが理解できる。

様々な文化、歴史を自分たちで、主体的に学ぶことにより、病院だけではなく、患者さんの生活の場、シームレスに看護としてかかわっていく、背景を大切にする土台ができたらと期待する。



テーマ：「基礎科目で学ぶ西諸学（にしもろがく）」

カテゴリー：教育内容（授業）

学校概要：学校名：学校法人宮崎総合学院小林看護医療専門学校 所在地：宮崎県小林市駅南 309 番地

課程名：看護学科3年課程 1 学年定員数：40 名 修業年限：3 年間

1. 科目を設定した経緯とねらい

本校は、宮崎県の小林市を中心とした西諸地域山間部にあり、地域の高齢化率は 41.3%である。学生が実習先で出会う患者の多くが高齢者であり、看護を実践するためには、学生自身とは異なる時代や文化を生活している人々を理解する必要がある。しかし、患者理解の手段となる言語にも地域特性があり、コミュニケーションにつまずく学生も多い。そのため、この西諸地域の歴史や自然、言語や信仰、食に至るまでの文化を広い視野から学び、患者理解に必要な視点を学ぶ。地域の文化財に触れ、見えないものに想いを馳せることで、想像力を働かせ、患者の置かれている背景を読み取ろうとする力を養いたい。そして、多様な価値観を理解し尊重する態度を身につけさせるとともに、10 年先を見据え地域共生社会を支える基礎となる学びになることを期待し、科目を設定した。

2. 西諸学についての思い 講師：坂下慎一先生

高齢社会が進行している日本において、看護を学び、医療現場で働いていく上で高齢者とのコミュニケーションはかかせないものである。西諸地域は宮崎県でありながら鹿児島の影響強いため、個性的でなおかつ独自の文化や言語（方言）が形成されている。看護を学ぶ今の若者たちの言語はメディアの影響で、急速に共通語化が進んでいることから、この地域独自の方言に触れる機会が乏しい。西諸学では、西諸の自然、環境はもちろんのこと歴史的な背景から現在に至るまでの文化や言語を体系的に学ぶ。そして、特徴ある文化や習慣、数多くの方言に触れることで、今の若者たちが、「方言を話すことは難しいが、聞き取ることはできる」ことは高齢者とのコミュニケーションや看護の実践においても重要ではないかと考えている。

3. シラバス

4. 授業の様子《フィールドワークの様子》

- 1. 西諸学について
- 2. 西諸の地理と自然
- 3. 西諸の産業と観光
- 4. 石造文化と人々の暮らし
- 5. 西諸と霧島信仰
- 6. 田の神さあを発見しよう（フィールドワーク）
- 7. 島津と伊東の 100 年戦争
- 8. 西南戦争と火事と水路
- 9. 防災の歴史探索～水路～（フィールドワーク）
- 10. 西諸の資源を生かしたツアー作成
- 11. 西諸方言学Ⅰ 基礎講座
- 12. 西諸方言学Ⅱ 実践講座
- 13. 西諸地域の食文化 がねつくり
- 14. 西諸の伝記・伝承
- 15. 西諸方言学Ⅲ 物語を方言で表現しよう



5. 学生の学び（第9回フィールドワーク後：学生レポートより一部抜粋）

- ・水路や防火壁がある場所や理由を知り、遙か昔の人々が未来の人々のためのことも考えながら作ったことが分かった。西諸地域はたくさんの人に愛され大切にされている知り、私も嬉しくなった。（学生 A）
- ・昔実際に使われていた橋を、今日、自分が歩いたのだと思うと、とても感慨深い気持ちになった。これからも大切に残していきたいと思った。（学生 B）

テーマ「知識の活用方法を学ぶ教育」

カテゴリー:③教育方法「演習」

1. 学校概要:学校名:唐津看護専門学校 看護専門課程 所在地:佐賀県唐津市栄町2588-8

課程名:定時制2年課程 1学年定員数40名 就業年限:3年

2. 内容:当校は、5年前よりポートフォリオ、ルーブリック評価を活用して実習要項へ変更している。実習は、知識やスキルを活用・応用・総合し看護実践を学んでいく。そのため、授業で実習をイメージした知識や技術の習得ができるよう各科目においてもパフォーマンス課題を活用した学習方法を取入れている。その一部を紹介する。

科目:母性看護学方法論Ⅱ 1単位 30時間

科目目的:妊婦・新生児が健康な経過をたどるための支援技術を身に付ける

単元目標:正常な新生児の生理学的状況を踏まえ、出生後の適応過程が順調に経過していることを確認するための観察技術と新生児を優しく養護する日常生活の援助技術を学ぶ。

回	主発問	授業内容・方法
1回	新生児の健康状態を判断するために必要な知識と技術とは？	身体的特徴・生理的変化を踏まえたフィジカルアセスメントを理解する(講義・演習)
2回	新生児が安全で安心できる清潔援助とは？	新生児の身体的特徴を踏まえ、安全で安心できる清潔援助[衣服着脱、オムツ交換、沐浴]を理解する(講義・演習)
3回	新生児が安全で安心できる日常生活援助とは？	実践の振り返りを踏まえ、安全・安心につながる環境調整の必要性を理解する(講義)
4回	新生児が安全で、安心できる沐浴とは？	パフォーマンス課題:事例3生日のIちゃんの観察・清潔援助の実践(演習)
5回	新生児の健康を守り、安全で穏やかに過ごせる日常生活援助の意義とは？	実践の振り返りから、新生児の健康を守りニーズや欲求を満たす援助について考える(講義)

授業方法として、事前にパフォーマンス課題、新生児の事例を提示し、学生はルーブリック評価に示す学習のポイントから必要な学習をして臨む。新生児への日常生活の援助技術を習得するため、講義で知識を確認して演習につなげ、実践後のリフレクションを評価内容とした。演習では、実践を本人の携帯で動画撮影、学生間でルーブリック評価を使って講評させ、実践後のリフレクションに活かせるようにした。3回目の講義で学生のリフレクションを活用し、新生児の身体観察や清潔援助時の安全・安心についてグループで意見を出し合い、全体の学びへつなげ、4回目の実践に活かせるようにした。4回目の演習は、学生一人一人が新生児の身体観察から沐浴の実践を行い、同様にルーブリック評価を用いて講評し合う。5回目の講義では、これまでの実践を振り返り、新生児の健康を守り、ニーズや欲求を満たす援助について考える内容とした。

実施した結果、学生は、グループの講評を活かし、実践後のリフレクションで課題を見いだしていた。次回の演習では新生児の身体的特徴をふまえてより安全、安楽、保温を意識した援助を学生自身が考えて行動し、手技も向上していた。学生の意見では、「演習や授業での学びで実習のイメージがわいた」「事前学習、実践、リフレクションで理解が深まった」「グループで行うことで、良いところ、ダメな所が分かり、自分に足りないところが分かりやすい」「パフォーマンス課題や演習を行うことでイメージしやすく理解が深まった」「今まで苦手だった母性看護学が少しは得意になった気がします」など学生自身が新生児への援助技術習得を実感できていた。

教員の所感:一人の教員で学生一人一人の技術演習の習得につなげるには限界がある。しかし、帰納的学習を取り入れ、ルーブリック評価を用いて学生間の気づきを伝え合うことで、学生はリフレクションにつなげることができる。また、その後の実践に活かし、学生自身が技術習得を実感できる。授業では教員の発問によって、学生が主体的に考え、学生間の気づきを引き出す支援を行っていくことが大切であると考え。

テーマ「看護実践につながる原理原則の修得をめざした看護技術演習」

カテゴリー：①教育方法（授業・演習）

学校概要：学校名：京都保健衛生専門学校 所在地：京都市上京区千本通竹屋町東入主税町 910 番地

課程名：看護学科三年課程 1 学年定員数：40 名 修業年限：3 年

内容

看護実践は、看護技術が対象の状況により組み合わせたり、援助内容や方法が判断され対象に提供されるものである。看護実践は、対象によって内容や方法、技術の組み合わせが変化するきわめて複雑なものである。このような複雑な看護実践を学生が修得するには、看護技術における原理原則の理解と対象に応じて活用する実践が往還できる授業・演習が必要である。そして援助の中で変化してよいこと、変化してはいけないことを理解することで、原理原則をふまえた看護実践につながると考える。

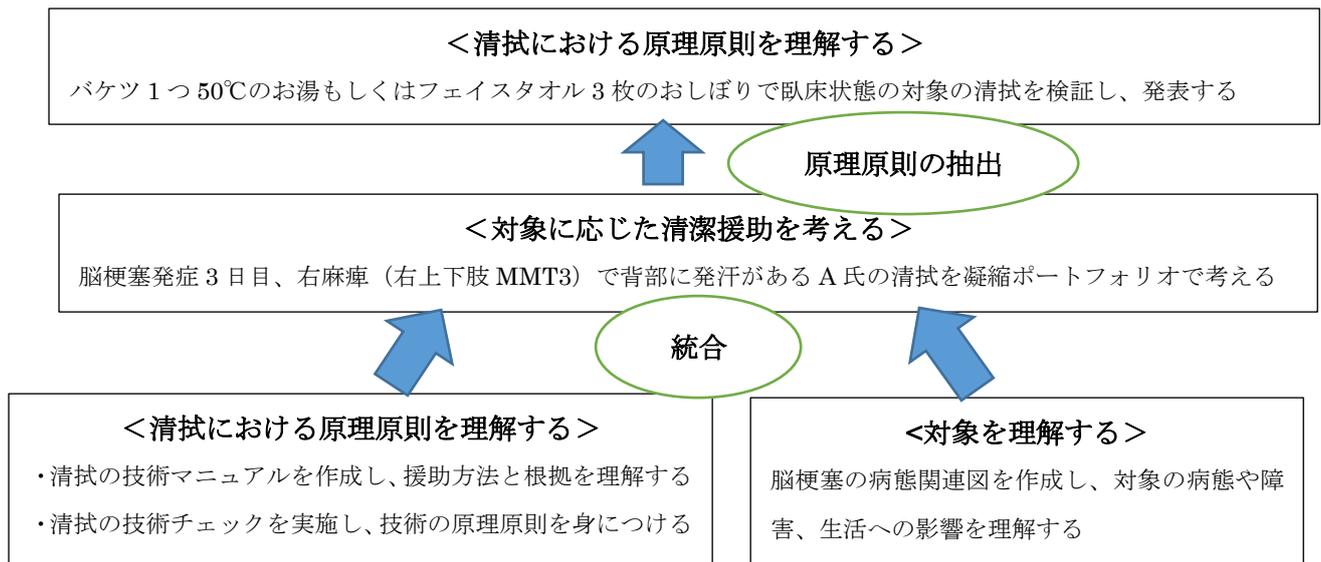
本校は、1 年次の 2 月にある基礎看護学実習 II (対象に応じた日常生活援助の実践)につながるために、授業・演習を逆向き設計で構築し、日常生活援助技術 1 単位 30 時間と日常生活援助技術演習 1 単位 30 時間を並行して展開し、原理原則をふまえた看護実践につながるようにしている。

清潔の授業・演習について報告する。

1 年次の日常生活援助と日常生活援助技術演習では、共通事例を設定し援助を考えるようにしている。

【授業・演習の展開】

- ① 各単元で技術マニュアルの作成と技術チェックを実施し、看護技術の原理原則の修得をめざす
- ② 病態関連図を作成し、対象の病態や障害、生活への影響についての理解をめざす
- ③ 事例の清拭援助について凝縮ポートフォリオを作成し、対象に応じた清拭援助を考える
- ④ 清拭道具を制限し、制限の中で臥床状態にある対象の清拭援助を検証し、発表する



【授業・演習の結果】

- ・凝縮ポートフォリオでは、対象の情報から現状と課題を考え、A 氏にとっての清拭の必要性を考え、A 氏の ADL をふまえて援助方法を考えている。
- ・清拭道具の制限の中で清拭について、「寒気を与えないこと」は厳守する必要があるが、拭く順序は道具や対象の ADL によって変更してもよいことを学びとして発表している。

以上のことから、学んだことを統合し対象に応じた援助を検討し、原理原則の活用について学び、条件を設定し援助を考えることで、「変化してよいもの」「変化してはいけないもの」について体験的に学んでいる。この経験を繰り返すことで、原理原則をふまえた看護実践につながると考える。

1) テーマ 学び続けられる学生を育てるための科目「学びを支える」の実践報告

2) カテゴリー ②教育内容

3) 学校概要 学校名:社会医療法人愛生会 愛生会看護専門学校

所在地:愛知県名古屋市北区五反田町110番地の1 課程名:3年課程

1 学年定員数:30名 修業年限:3年

4) 内容

・本校に入学した学生から「今までと学び方が違う」「どのように勉強したらいいのかわからない」という声が幾度となく聞こえてきた。そこで新カリキュラムでは、本校における学びの基盤を教員間で取り出し、ディプロマポリシーとの整合性を確認し、初年次教育として必要な「アカデミックスキルズ」を基礎分野に科目構築し、本校の専任教員が担当した。

・「学びを支える」の授業デザインを教員全員で検討し合意をとった。各領域別看護学の授業デザインを持ち寄り、「学びを支える」で修得した方法を活用した。例えば、文献検索は「看護の基礎」で行う文献クリティークに、KJ法は「看護を知る実習」のカンファレンスやラベルワークにつなげるといったように科目間の関連を意識し、学習を深化させるようにした。

《科目目標》 成人学習者としての学び方や学習方法の基盤を学び、必要なスキルを習得できる。

《分野 単位(時間)》 基礎分野 1 単位(30時間)

1 回目	シラバスとは? iPad と Teams の使い方、聴講マナー	9 回目	レポートを書いてみる
2 回目	メモを取りまとめる、文献検索とは	10 回目	
3 回目	テキストの読み方、ノートテイキング	11 回目	ブレインストーミング、KJ 法
4 回目	レポートの書き方とマナー	12 回目	
5 回目		13 回目	iPad を活用しプレゼンテーション
6 回目	話し合い、討議、カンファレンスのマナー	14 回目	
7 回目	社会人基礎力セルフチェック	15 回目	KJ 法で「授業での学び」をまとめる。 グループ内でわかちあい
8 回目	看護技術の文献検索		

*毎回の授業でリフレクションシートを記入する。

5) 科目担当教員の感想

・看護専門学校に入学して成人学習者としての学習方法を身につけていく必要がある中、学生からは「iPad の使い方がわかった。」「KJ法がわかった」などのまとめがあり、それぞれの科目につなげる土台作りができたように感じる。次年度に向けてブラッシュアップしていきたい。

写真1 初回授業の様子



写真2 KJ法を活用したラベルワーク



古き良き、新しき良き 関西看護専門学校

～変わらないものと変わりゆくものの共存～

カテゴリー：⑤その他（ピアサポート）

学校概要：社会福祉法人 枚方療育園 関西看護専門学校

大阪府枚方市津田東町2丁目1番1号 3年課程 1学年定員数100名 就業年限3年

内容：本校はベテラン教員と新人教員の二極化の状況にある。互いに尊敬し合い成長し続けるためにピアサポートチームを発足し活動している。今年度、第2回目グループワーク『本校のいいところ探し』を実施した。その一部を報告する。

*『本校のいいところ探し』の目的

帰属意識を高めることができ、協調性が高まり、生産性が向上する。また、自律性が促され、モチベーションアップにつながる。その結果、離職率が低下し、定着率が向上する。


Kansai Nursing College

教育理念

「やさしい手と確かな目で、
大切ないのちを護る人を育成する」



マスコット
キャラクター

HANAHちゃん

静かで教育に適した環境

- ・敷地が広く、空気がきれい
- ・母体が隣接している
- ・全国からの入学生が多い
- ・学生寮を完備している
- ・歴史ある校舎
- ・海外研修
- ・ICTを活用した最新の教育



教員数が多い 10対1教育

- ・ベテラン教員～新人教員がいるので多様な教育観・価値観に触れられる
- ・ベテラン教員は教育力が高く、後輩育成に尽力
- ・新人教員は活気があり明るい
- ・毎年教員養成講習会を受講する教員がいる、最新の教育の知識を共有
- ・相談しやすい雰囲気と協力体制が整っている
- ・研修への参加や積極的な研究活動を支える経済的支援

Tradition & New



より良い教育へ



伝統を大切にしつつ、新しいことへのチャレンジ

本校の学生は…

まじめで礼儀正しい、素直で明るい
多様な価値観に触れることができる
最後までやり遂げる力をもっている
キャリアデザインを描くことができる
国家試験の合格率は全国平均以上!!

1) テーマ 『ヘルスプロモーションの考え方を基盤にカリキュラムを構築』

2) カテゴリー ①教育課程

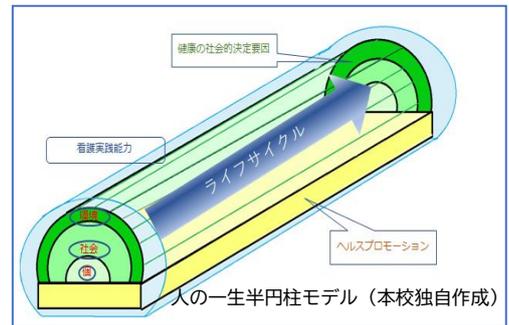
3) 学校概要 学校名：専門学校 ベルランド看護助産大学校 所在地：大阪府堺市中区東山 500-3
 課程名：3年課程 1学年定員数：80名 修業年限：4年
 卒業後資格：高度専門士

4) 内容 **カリキュラム構築の考え方**

本校の設立母体は、誕生から死にいたる人々を支える施設一病院・介護老人保健施設・特別養護老人ホーム・複合型施設・複合型医療福祉施設・訪問看護ステーション・認定こども園・不妊専門クリニックを有しており、地域包括ケアの視点を育成するトータルヘルスケアシステムを活用した看護教育を実施できる強みを活かしたカリキュラムを構築した。

あらゆる場で生活するあらゆる年代の個人・家族および集団(コミュニティ)を対象とし、その対象がどのような健康状態であっても自らの健康の社会的決定要因をコントロールし、その人らしく健康状態を維持・改善し QOL を高めていく過程と理解し、人の一生を捉えて支援できる基礎的能力を身につける看護師を育成することが、2025年に向け、地域で生活する人々との暮らしを守るために保健・医療・福祉をつなぐ看護実践ができる看護師を輩出することに繋がると考えた。

細胞・遺伝子等の個体の状態やライフスタイル・社会環境による健康の社会的決定要因により、人の一生(ライフサイクル)と健康状態は変化している(右図参照)。連続的・流動的に変化する健康状態であらゆる場で生活している「ひと」を理解し、必要なケアを提供することで、その人の健康状態を維持改善し QOL 向上を支援することを看護の目的とし、ヘルスプロモーションの考え方を基盤にしたカリキュラムを構築した。



各看護学の単位対比表

分野・内容	基礎分野	専門基礎分野	基礎	地域在宅	成人	老年	小児	母性	精神	統合	キャリア
のモヘルも本シスのとよフなんロ	人を知る	3.0	6.0			0.7	0.7	0.9	0.5	0.2	
	ヘルスプロモーションの基本となるもの基盤		1.0	1.5	0.5	0.6	0.6	0.4	0.6	0.8	
	ヘルスプロモーションを支える技術			10							
ヘルスプロモーションの5つの活動	病とともに生きる		16								
	ヘルスサービスの方向転換				1.0	0.6	0.4	0.3	2.7		
	健康増進・予防的保健行動				0.4	0.4	1.4	0.4		0.4	
	病気回避行動				2.6	6.1	2.8	3.4	0.2	2.9	
	病気対処行動										
	最善の生を支える					1.5	1.1	0.4			
	個人技術の開発	6.0		1.0							
地域活動の強化	2.0	1.0		2.0						1.0	
健康的な公共政策づくり		3.0									
健康を支援する環境づくり	4.0	2.0		1.0						1.0	
キャリア支援	5.0									8.0	6.0
臨地実習			3.0	2.8	4.5	4.6	2.0	2.0	2.1	4.0	2.0

今回、ヘルスプロモーションを基盤にしたカリキュラムを構築できたのは、学校の財産である教員の叡智の結晶であるといえる。(1)ヘルスプロモーションの理解を深める、(2)健康の社会的決定要因により変化するあらゆるライフサイクル・生活の場、健康状態にある対象理解の視点を明確にする、(3)各看護学の特徴を踏まえた横断科目の教育内容を精選する、(4)シミュレーション(ICT活用能力)を生かした教育方法を共有する、(5)各看護学横断実習のフィールドを選択し調整を図る、(6)看護師キャリア育成につながる科目を検討し創設するために、教員一人一人の経験を生かしたアイデアを具現化してき

たからである。検討のプロセスにおいては、各看護学が大切にしたい教育内容を強調している段階は領域の縦割りとなっており、地域で生活しているあらゆる対象の状況を理解させたいという願いに何度も立ち返り、領域を横断した教育内容の選択と教授方法について検討することができた。ヘルスプロモーションの考え方を基にしたカリキュラム構成は、学習目的を明確にしなが履修進度を整理することができ学生にとっても効果的であると考え。

今後は、カリキュラムを実践し、学生の成長を支援できるよう教育評価の視点にも教員の教育実践能力を発揮できるよう協働していきたい。

- 1) テーマ：能登の自然と文化
- 2) カテゴリー：教育方法
- 3) 学校概要：七尾看護専門学校、石川県七尾市なぎの浦 156 番地、
課程名：3 年課程 1 学年定員数：40 名 修業年限：3 年



教育目標：能登地域で生活する人々や環境、文化を理解する。

学生の学び

のと里山里海ミュージアム館長 見学

のと里山里海ミュージアム

1 能登半島の歴史と文化

能登の自然と文化を学ぶことで私の地元の自然と文化を知りたいと思った。

生まれてからずっと石川県で暮らしてきましたが、石川県の歴史、自然、文化を学び、石川県名人になりたい。

2 七尾城と長谷川等伯

長谷川等伯の名前は知っていたが地元が違うため、詳しくは知らなかった。七尾にはまだ見つかっていない歴史もあるのではとわくわくした。

3 施設見学（のと里山里海ミュージアム）

改めて能登の祭りや文化など魅力を感じた。

4 西湊地域づくり協議会について

- 1) 七尾市地域づくりについて
- 2) 西湊地域づくり協議会活動内容

地域づくりでは様々な組織が集まり、市民の自律と共助に基づき、市民の力で安心、安全な地域づくりが行われている。お世話になっている地域コミュニティーのことをあまり知らなかったと思った。今後コロナ感染拡大の影響を受け地域のつながりが希薄になりながら、少子高齢化が進むことで地域の社会生活全体が不安定になる可能性を感じた。その不安に対し、いかに新しい町づくりを通して解決する仕組みを模索する必要がある。

5 山の寺寺院について（市民の憩いの場としての役割）

日本が他の国からどう見られているのか説明を受け、近隣の国の関係や朝鮮半島のことなど視点が違うことにつながった。知識を得て上に伸びるばかりでは途中で折れてしまうかもしれない。その中で、文化の学びは下に根を深くすることにつながると思う。この科目の必要性に気づけた。

6 山の寺寺院めぐり

妙観院の住職に山の寺寺院群と瞑想の道を案内していただいた。長谷川等伯が塗った仏像を見せていただききれいな色使いでとても感動した。

山の寺寺院群を見学し今までずっと大切にされてきたのだと思った。

京都と七尾のつながり、人と人のつながりがあり、それは七尾にとっての特徴の一つであると学べた。



由緒ある、田鶴浜の建具

花嫁のれん

長谷川等伯像

妙観院

歴史感じる、寺院めぐり。



テーマ「 一致団結した教授方法 」

カテゴリー：③教育方法（授業）

1. 学校概要：学校名：播磨看護専門学校 所在地：兵庫県加東市家原 812-1 課程名：3年課程 1学年定員数：35名 修業年限：3年

【カリキュラム改正】

今回のカリキュラム改正では、専門基礎分野において人体を系統だてて理解し、観察力、判断力を強化すること、臨床判断能力の基盤となるよう演習を強化する内容であることが求められた。本校でも看護の観点から人体を系統だてて理解し、観察する能力を強化するために従来の「解剖生理学」を「看護解剖生理学」に変更した。内容を人体の構造と機能を土台にフィジカルアセスメント、形態機能学を加えた。対象を生活者としてみるために、体の仕組みを知り体の反応を観察する能力を身につけ生活にどのように影響しているのかまでを一連の流れとして学ぶように計画した。

【進度】

覚えることが多く苦手意識をもちやすい科目であるが、学内の看護教員が担当することにしたことで集中講義を実施することが可能になり1単位30時間を3～4週間での集中講義とした。人体の構造と機能を学習した後は、部位を観察する方法（フィジカルアセスメント）、そして生活行動に関連させることで一連の流れを演習も含めて進めていく。

【学生観】

学生の多くは、Z世代とよばれるデジタルネイティブな中で育った学生である。与えられたものを活用することはできるが、自分たちで考えていくことは苦手である。講義は、教えてもらうものととらえる傾向がある。通信機器も上手く操り合理的に物事を仕分けすることができる。デジタルテキストになったが、早くに慣れることができグループワークでもiPadを活用できている。

【教授方法】

担当する教員には、短い期間のなかで実施することや初めての担当領域であり教材研究が十分行えない戸惑いが生じていたが、学生の期待を一身に受け、身を奮い立たせている。教員が負担になることは予測できていたが、どのように教えると効果的か、現在の学生の特徴はどうか等、積極的に検討し学生が思考を働かせながら学習する方法を見つけようとしていた。

学生の思考は看護を考えていくには合理的過ぎる。まずは、早いうちに思考の確立を図ることが必要である。そのためには考える習慣が身につくように進めなければならない。そして、看護解剖生理学Ⅰ～Ⅴを一貫した方法で教授しようと考えた。受講しながら考え、自分で要点を見つけることができるような方法はないかと考えた。見て理解する視覚の活用、書きながら記憶を刺激するなど、五感を活用する方法が効果的ではないかということになり、パワーポイントやカラフルにまとめた資料作りは控えようということになった。基本はテキストと板書とした。人体の構造を書き、説明し、時には動画を活用し講義をおこなった。

【結果】

講義を聴きながらデジタルテキストのiPadに書き込み、ノートにまとめている様子は必死に学ぼうとする気迫を感じる。必死について行かないと板書の文字や図は消えていく。聞き逃したこと、考えているうちに過ぎて行ってしまったこと、テキストの表現と異なることなど、講義の終わりには積極的に教員に質問する姿が途絶えない。身体反応に興味をもち、対象を生活する人として感じていく学習方法の導入は順調である。今後は、学内教員の講義は資料重視より、レジュメと板書を中心に行うよう取り組む計画である。教員間の連携が一貫したものであることが一番の強みである。

テーマ:プロジェクト学習を活用した「学生の意志ある学び」への取り組み

カテゴリー:③教育方法(授業・演習・実習)

学校概要:学校名:横浜市病院協会看護専門学校 所在地:横浜市港南区港南台 3-3-1 課程名:3年課程
1学年定員数:80名 修業年限:3年

「内容」自身の描いている看護学生としてのビジョンを明確にし、そのビジョン達成を図るために役立つ方法を見出すゴールを設定して第1学年では、「健康を守る方法を見出すプロジェクト学習」を、第3学年では「より良い看護の方法を見出すプロジェクト学習」を取り入れた教育活動を行っている。この学習をとおして、ビジョンを描ける力、目標設定力、情報獲得力、課題発見力、課題解決力、プランニング力、時間把握力、俯瞰力、省察力、プレゼン力などの多くの力を獲得する機会になることを期待し継続している。最終的な作品は知の共有を図る発表機会を設け、他者にも役立つより良い看護の方法を提案する経験を意図している。第3学年のプロジェクト学習では他学年も発表会に参加して意見交換している。

・経緯:看護師という専門職業人として、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力の育成が求められた前回の看護基礎教育課程の第4次改正を契機に、学生が自ら気づき、自ら学び成長していける力をつけることを目標に、学生の「意志ある学び」の一つとして平成25年度から取り入れ今年で10年目を迎え、第3学年のプロジェクト学習では教員の指導体制も少人数制を確保できるように発展してきた。

・令和4年度の第3学年におけるプロジェクト学習の取り組み内容

	項目	内容
実習前	準備、ビジョン・ゴール 情報収集、計画	4~5名グループに1名の教員が指導 ガイダンス ビジョンとゴールを決める
実習中	情報収集、計画、実施、 経験の振り返り、新たな発想	価値ある情報をポートフォリオしながら省察 担当教員とゼミ形式で計画・考察共有
前半実習終了後	経験の振り返り、整理、 情報収集、解決策制作	価値ある提案を見出す整理・省察 まとめの原稿作成 指導を受ける
後半実習中	グループ内プレゼン	他者のプレゼンからも学び、原稿仕上げ 担当教員とゼミ形式の添削指導を受ける
原稿提出	再構築	再構築 まとめなど
発表会	発表会	学年を超え、他者と知の共有を図る 有意義な意見交換 成長報告 ポートフォリオ
評価	成長確認	全工程を振り返り今後の自己成長に役立つ方法を見出し、ポートフォリオとして保存

・取り組みについての感想と評価(精神看護学専任教員:菊地一美 基礎看護学専任教員:野口理恵子)

ゼミ形式の指導場面では、自身が経験したことを語りながら患者の気持ち、実践した看護のありようを省察する貴重な時間を持っている。学生の思いや経験知を引き出す教員のコーチングや助言指導が学生の思考を促進し、自身の体験に価値を見出す学習を可能にしているため、この指導体制を確保できている点は大きな強みである。患者の言動の背後にあることは何かと思考を深め、情報を俯瞰して課題を発見するなど臨床判断力を高める教育機会になっていると感じる。プロジェクト学習開始から10年が経過し、教育方法や手法の検討と評価を検討する時期となっているが最終段階の成長確認では誰一人もれなく、自身の生涯学習の必要性を述べており、この学習が自ら学び成長していける力をつけることに役立っていると実感している。



テーマ：「ICT 導入による働き方・職場環境の改善」

カテゴリー：⑤その他（働き方、職場環境改善）

1. 学校概要：学校名：横浜市病院協会看護専門学校 所在地：横浜市港南区港南台3-3-1 課程名：3年課程 1学年定員数：80名 修業年限：3年

「内容」

・学内オンライン環境を整備し、学生および教員にとっての効率的、効果的な学習環境を整備し、看護教育の質の向上に取り組んでいる。

・経緯：ICTの法制化、コロナ禍を契機に取り組みが加速し稼働中のため報告する。

・導入までの経緯

年度	項目	内容
R2	Google アプリ“Classroom”3 学年試用開始	・課題配信・国家試験支援 ・机上患者によるオンライン実習・メンタル支援
	オンライン環境整備	・学生の Wi-Fi 環境の実態調査 ・Web 機材選定・購入・学内 Wi-Fi 設定
	GoogleWorkspaceforEducation 本格運用	・学校経営者（役員会）承諾にむけ起案書作成 ・ドメイン証明、サーバー契約更新 ・Google アプリ“Classroom”1 学年、2 学年運用開始
	ICT リテラシーの向上	・Web 会議アプリ操作学習会(Zoom、Meet) ・Google 教育者資格取得者増員
R3	マニュアル整備	・運用基準作成 ・オンライン授業マニュアル作成
R4	電子教科書導入	・新入生より ipad 購入、教員への配布 ・基本操作説明会
	ペーパーレス化	・会議レジメ、議事録・インシデントレポート入力 ・授業アンケート配布、集計

・取り組みについての所感（成人看護学専任教員 山口義美）

R2 年度から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、看護学生の学びが途絶える危機となった。学生は通学もできず、新型コロナウイルス感染症への対応が変化する情勢下で、本校が従来実施してきた郵便物での配送、電話連絡では時差が生じてしまい、学生の不安が増した。そのためタイムリーな情報共有システムの確立が急務となった。

そこで、Google が提供しているアプリ Classroom に着目し、システム導入と教員の ICT リテラシーの向上について取り組んだ。取り組み経過で、学校のオンライン環境を見直す機会となり、教員・学生ともに価値観の変更を余儀なくされたが、古い体制の見直しや新システムの受け入れと新規構築など、擾乱と制約の中での取り組みで得たものが多かった。例えば、学生 1 人 1 人と向き合う機会に時間が使えるようになったこと、インターネットを用いた学習方略の幅が広がったことなどがあげられる。また、突然の ICT リテラシーを求められる中で教員間連携や教員の学習意欲を改めて感じる機会となった。まだ課題はあり、With コロナで安心できない事も多いが、教員との連携、学生の成長につなげていきたい。

